

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	感覚・知覚心理小委員会	主 査 名：梅宮 典子 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)	委員長名：持田 灯 主 査 名：宗方 淳
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度：前身の小委員会の活動を継承し、活動方針を策定。学会内外における研究動向を把握。シンポジウムの開催 (1 回)。 ・2018 年度以降：シンポジウムの開催 (年 1～2 回) 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： 秋田 剛 (東京電機大学), 梅宮典子 (大阪市立大学), 合掌 顕 (岐阜大学), 澤島智明 (佐賀大学), 竹原広実(ノートルダム女子大学), 竹村明久(摂南大学), 土田義郎(金沢工業大学), 西名大作(広島大学), 原 直也(関西大学), 原田昌幸(名古屋市立大学), 松原斎樹(京都府立大学), 光田 恵(大同大学), 宮本征一(摂南大学), 山中俊夫(大阪大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<新領域展望 WG> ・昨今の技術革新によって発展の目覚ましい簡易測定機器とネットワークの活用などをはじめとして、情報学・医学・農学・土木工学など他分野との連携を行いながら、これからの感覚・知覚心理研究に対して有意義な研究手法の発信など、研究推進に寄与する知見を公開する。	
2020 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	感覚・知覚心理小委員会：5 回 (年度内開催予定を含む) 新領域展望 WG：5 回 (年度内開催予定を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー 等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 5 回感覚・知覚心理シンポジウム「環境研究における「アプリ」活用の可能性」2021 年 2 月 27 日開催予定 (延期後) (資料名) 同上 参加者数 名 2. 第 6 回感覚・知覚心理シンポジウム「環境によるストレス」 2020 年 10 月 10 日開催 (資料名) 同上 参加者数 57 名
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 名 (資料名)
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>2020年度の成果は下記のとおりである。</p> <p>1. 第5回感覚・知覚心理シンポジウム「環境研究における「アプリ」活用の可能性」2021年2月27日開催予定 当初2020年7月に大阪で開催する予定であったが、新型コロナ感染拡大により延期となり、オンライン開催として計画を練り直した。 小型センサを携行する環境測定やリモートによる評価実験、簡易計測機器の精度の確認、スマートフォンによる音環境の簡易測定と評価への活用について紹介し、研究における「アプリ」活用の可能性について、議論をおこなう予定で準備を進めている。</p> <p>2. 第6回感覚・知覚心理シンポジウム「環境によるストレス」 2020年10月10日開催 (資料名) 同上 参加者数 57名 騒音・振動による作業性の悪化、光の性質による眼疲労への影響の違い、復興公営住宅入居者のQOLと精神健康度、室内植物によるストレス緩和作用について発表し、環境によるストレスについて議論をおこなった。オンラインによるシンポジウム運営のノウハウが乏しいなか、全国から参加があり、討論の部では予想を超える数の質問やコメントがチャットに寄せられるなど、新しい形式のシンポジウムとして幅広く活発な議論が行われた。</p> <p>3. 感覚・知覚心理研究に関する情報交換(シンポジウムに関連する研究紹介等) シンポジウムのテーマの選定や内容の検討の過程で、研究の最新動向を知り、シンポジウムのテーマに関する勉強会や委員の研究紹介、関連研究に関する情報交換をおこなった。 2020年度前半は環境によるストレスについて、ストレスを生じやすい環境やその影響と緩和策について、ストレスに関する基礎理論の勉強会をおこない、特にWGの若い委員から最新の研究成果や研究動向を紹介いただくなど、建築環境の音、光、熱、空気の分野横断的な情報交換をおこなうことができた。 2020年度後半は、研究に活用できる各種アプリの情報収集や、アプリを研究に活用している委員の経験や研究内容について話題提供いただいて、新領域に関する知見を拡げることができた。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>特になし</p>

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>4年間の委員会活動期間に下記の6回のシンポジウムを開催し、年1~2回のシンポジウムを開催するという当初の目標を達成できた。</p> <p>また、シンポジウムのテーマの選定や内容の検討の過程で、研究の最新動向を知り、シンポジウムのテーマに関する勉強会や委員の研究紹介、関連研究に関する情報交換をおこなうなかで、建築環境の音、光、熱、空気の分野横断的な交流を深めるという当初の目標も、達成できたといえる。</p> <p>したがって、総合評価はAとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一回感覚・知覚心理シンポジウム「被験者を用いる研究の意義と限界」 2017年10月14日開催 参加41人 ・ 第二回感覚・知覚心理シンポジウム「時を経て移り変わる環境意識にどう向き合うか」2018年7月7日開催 参加31人 ・ 第三回感覚・知覚心理シンポジウム「ビッグデータ時代の統計と心理」 2018年12月1日開催 ・ 第四回感覚・知覚心理シンポジウム「福祉環境の設計における感覚・知覚」 2019年7月20日開催 参加46人 ・ 第五回感覚・知覚心理シンポジウム「環境研究における「アプリ」活用の可能性」 2021年2月27日開催予定 ・ 第六回感覚・知覚心理シンポジウム「環境によるストレス」 2020年10月10日開催 参加57人

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。